

目的:大衆スポーツであるテニス服の着用実態および問題点を調査してテニス服の機能性とファッション性を向上させる代案をもちいることを目的とする。

方法:ソウルおよび首都圏であるテニス場で121名を対象にして質問紙方法で調査する。調査時期は1994年6月1日-9月30日までするし、対象は20-60代である。統計分析は頻度分析および交差分析を行なっている。

結論:1)テニス運動をする動機は30代以前は趣味が多く、40代以後は健康のためであると示している。2)テニス服の購入場所は有名スポーツ靴チェーン店を選好している。その原因としては購入するのに簡単で多様であるとする。3)テニス服の色の固定観念は白色だけあったが以前とは異なって白色以外の色を選好している。4)日常服との兼用與否に対しては家で簡便に着る人が50.4%をしめしているし、その傾向は年齢が多くなると大きい。5)上衣の袖の形態はシェーツ袖を選好するし、夏服の着用状態は內衣を着ない傾向であって吸水性が卓越な素材開発が要求される。冬服はあつい服の形態は避けている。6)あせが多く出る時、暑さを耐えて競技をする人は23.1%を示し、上衣を上げたり下げたりする人も19.8%を示してあって運動時上衣を上にあげて固定させるdesign開発が必要である。7)下衣の改良事項には胴のゴムひもか伸びることが31.4%、左のポケットの深がさかあって球を取りだす時不便であることが14.9%であり、ポケット裏地が球をとりだす時返えることが36.4%である。ポケット裏地が返えないように固定させる方案およびポケットふかさも不便さがないようにすることが提案される。